

潜水業務奮戦記（60を超えて潜水調査に挑戦しています。）

相模湾試験場 前川千尋

相模湾試験場の前川です。この3月末に34年間勤めた県を退職し、4月から再任用職員として改めて相模湾試験場にお世話になっています。四半世紀ぶりに研究員として現場の調査研究に取り組んでいます。

相模湾試験場では、養浜の環境調査や県西地域の磯根の海藻やあわびの調査を担当しています。磯根の調査では、スクーバダイビングで海の中に潜り観察する業務が主となります。現場での潜水業務から長らく離れていた私ですが、何時かは現場に戻れる時のために、50歳を過ぎた頃に、スポーツジムに入り、以来週4、5日の水泳を欠かさないようにしてきました。

お陰で、1回の潜水調査では30分以上潜ることになりますが、体力的にきつuitと感じることはありません。ただ、BC（浮力調整装置）、ダイビングコンピュータの取り扱いでは、中々慣れないことが多く、若い職員に教えてもらっています。

潜水の技術は、30代の始めに相模湾支所（現相模湾試験場）に勤務していたときに、当時の支所長に教えてもらいました。私に潜水技術を教えてくれた支所長は、昭和30年代に定置網漁業の網の管理のためのダイバーを養成するために潜水技術を習得され、その後、何人も潜水士を養成された方です。プールでの基礎訓練を受け、海での最初の潜水が小田原漁港沖水深10メートルの投石漁場に潜り、2回の目の潜水では、水深30メートルの二宮沖にあるマダイの幼稚仔保育場に潜りました。その後は、一応独り立ちということで、支所として取り組んでいた沖合生簀網の開発試験では、潜水して生け簀網の形状の観察や蓄養している魚の状況の観察などを行いました。当時は、現役で潜水を行う職員が私だけで、潜水調査をする時は、漁業者、調査会社の方とかプロのダイバーの方と一緒に潜り経験を積みました。その中には、日本のレジャーダイビングの草分けの人も含まれていまして、今から思うと貴重な体験が出来たと思います。

今では、海上から水中を見ることができる安価なつり下げ型的水中カメラが販売されており、必ずしも潜水しなければ出来ない調査は以前と比べて減ってきていると思いますが、磯根を潜って海藻や周りを泳ぐ魚たちに囲まれると、海の様子を肌で感じる事が出来ます。また、以前定置網の中に潜った時には、ROV（自行式水中カメラ）で撮影した画像より広い視野で観察でき、さらに細かい網の状況も把握することができました。可能ならば人間が潜水して直接観察した方が、当初考えていなかったことが見えてくることもあります。

上司からは年を考え程々にと言われておりますが、周りに迷惑をかけないで、これからも潜水できる体力・気力があるうちは頑張りたいと思います。

漁業士って何？

企画資源部 片山俊之

私は平成 28 年 4 月に水産技術センターに赴任して以降、業務の一つとして漁業士会の事務局を担当しています。漁業士会と聞いて何をしている組織なのかすぐにはわかる方はごく少数だと思います。

漁業士制度は、「次代を担う漁業後継者の育成・確保」を目的として国が昭和 61 年に制度化し、県知事が、県内各地区で中核を担う漁業者を漁業士として認定します。認定を受けるためには様々な条件があり、漁業士として認定された漁業者は、まさに漁師の中の漁師、プロ中のプロといえます。神奈川県漁業士会は平成 2 年に発足しました。

今回は、漁業士会の活動のうち代表的なものについて紹介します。まずは、毎年 1 月に県等と共催で行われる「新春神奈川県漁業者交流大会」です。交流大会では、毎年新たに認定された漁業士を紹介するとともに、認定証書授与式が行われます。また、交流大会終了後には漁業士会総会、交流懇談会が行われ、県内の漁業士同士が交流する貴重な場となっています。

役員は各地区から選出され、年に 5 回程度役員会が開催されます。役員会では、漁業士会の活動について様々なことが活発に議論されています。まさに漁業士会の中心を担っている存在と言えます。

毎年 9 月から 10 月には神奈川県漁業士研修会が開催されます。研修会では、漁業者が研修したい事柄について講師を招いて講演してもらいます。また、県の研修会とは別に、毎年、関東・東海ブロック（千葉県、静岡県、愛知県、三重県、神奈川県）漁業士研修会が各県持ち回りで開催されます。平成 29 年度は神奈川県が当番県であったため、役員を中心に 1 年ほど前から準備を始めました。横浜市のホテルメルパルク横浜で研修会を開催し、現地視察では横須賀市にある海洋開発研究機構（JAMSTEC）横須賀研究所を訪れました。ブロック研修会は、他県の漁業士同士が交流する貴重な場となっており、交流懇談会を含め大いに盛り上がりました。

この他にも、県が実施している漁業就業支援事業に漁業士が講師として参加したり、漁業体験の場を提供するなど、新規漁業者の就業支援なども行っています。

私が漁業士会事務局を担当して最も驚いた事は、漁業士には、視野を広く持ち、柔軟な考え方ができる方が多いということです。また、それぞれの漁業士が神奈川県漁業の将来について自分の考えをしっかりと持っているところです。このように漁師の中の漁師が集まった漁業士会と今後も連携し、一緒に神奈川県漁業を盛り立てていきたいと思っています。



○ブロック研修会の様子



○現地視察の様子



○漁業セミナーの様子



○漁業体験の様子